

県外派遣審判員報告書

作成日 2018年 3月 22日

大会名	ハヤシカップ第16回九州ジュニアオールスターバスケットボール交換大会	会場	大津町総合体育館
期間	3月17日(土)~3月18日(日)	報告者	田崎 和也(中体連)

スケジュール

期日	内容	場所
3月17日(土) 9:30~	大会1日目	大津町総合体育館
3月18日(日) 9:30~	大会2日目	大津町総合体育館

審判会議の内容

○審判会議なし

実技	割り当て	男子予選リーグ【福岡 vs 熊本B】	副審	相手	森山(鹿児島県)B級
----	------	--------------------	----	----	------------

○ゲーム前(プレカンファレンス)

ガイドライン(イリーガルな手の使い方を中心に)の確認。フルコートDFに対してのお互いのカバーする範囲, 受け渡しの確認。

○ゲームの実際

ゲーム序盤は落ち着いて入ることができ, お互いのエリアの判定(特にファウルに関して)をしっかりとできていたと感じた。しかし前半点差が開くにつれて, DFが激しくなりイリーガルな手(特にハンドチェック)の判定の整理が十分にできずそのままゲームが進んでしまった。ゲームの判定基準を示すという点において課題が残る試合であった。

○ゲーム後(ポストカンファレンス)

点差が大きく開き福岡優勢の一方的なゲーム展開となったが, 試合の緊張感はしっかりと保つことができたと感じている。しかしハンドチェック等の笛が序盤鳴らなかったため, 熊本サイドからするとプレーしづらい環境であったという指摘を受けた。激しいDFを行っている中でも, 良いプレー, 悪いプレーを見極め選手に示してあげることで, 選手もベンチも対応していくことができるのではないかと感じた。ゲーム序盤での判定基準を明確に示すと共に, ガイドラインを再度確認し整理していくことが必要であると感じた。

実技	割り当て	男子2位パート【鹿児島 vs 佐賀】	副審	相手	岸川(長崎県)B級
----	------	--------------------	----	----	-----------

○ゲーム前(プレカンファレンス)

- ・ 悪い手の使い方, ポストプレイに関して早い段階で判定基準を示していくこと。
- ・ 両チームの前日のゲームの情報を持ち寄り, ハンドチェックは特に注意しながら判定をしていくこと。

○ゲームの実際

前半両チーム共に悪い手(特にハンドチェック)に関して判定し, 基準を示すことができたので, 落ち着いてゲームが進んでいったと感じる。ハーフタイムでファウルの数を確認し, 前半同様判定を下していくことを確認した。しかし後半は入りのOFファウルの判定に関してベンチからアピールがあり, 笛がぶれてしまったと感じる。試合の勝敗に影響したわけではないが, 見る位置, OF, DFの状況確認等を含めしっかりと行っていく必要が大いにあると感じた。

○ゲーム後(ポストカンファレンス)

後半笛がぶれたように感じたので, ベンチからのアピールに関しても適切な処置をすること, 自分を保ちつつも少し聞く耳を持つことも大切であるとのことであった。リードにいるときにプレーに近く, ブロックショットが見えづらくなってしまっているため, 少し下がってスペースを取ることで判定の正確さが増すのではないかと指摘を受けた。またショットクロックが1回リセットされてしまったケースがあり, それも含めて再開方法と時間管理をしっかりとしないといよりレベルがあがったら厳しくなるとのことであった。

全体を通しての感想

今回初めて県外派遣を頂き, これまで県内で行ってきたことを出し切り, 多くのことを吸収してこようと思い大会に臨みました。会場の雰囲気や, ベンチの様子, 選手の気持ちも日頃の大会とは違い, 審判員として大会に参加する者として初日から身が引き締まる思いになりました。

実際に審判を行ってみて, 日頃行ってきたこと以上にこれからより一層の努力が必要という向上心が芽生えた素晴らしい機会と大会になった。力量を上げていくために, 試合の振り返りを積み重ね多くの経験の場を自ら求めていきたいと思いました。

最後に, このような機会を与えて下さった県審判委員会や, 運営等さまざまな場面でお世話を下さった熊本県審判部